自然保育推進事業　活動報告書

１　団体名
　　認定こども園みどりがおかようちえん

２　今年度の活動概要

（１）環境構成に関すること

令和３年度は、東広島市の「５つの力を育む魅力ある保育環境づくり」補助事業への参加を通して、全国で保育環境整備の指導にあたっておられる木村歩美先生をお迎えして研修・整備を行うことができた。自然を活かすゆたかな園庭環境をめざし、より深い整備の取り組みをスタートした年となった。

もともと園庭には小さな築山があり、子どもたちは日々そこを登ったり下ったり、フープを転がしたりして遊んでいた。しかし山全体が真砂土でできているために強い雨が降るたびに山肌の土が流れ、中に隠れていた小石が露出して危険な状況になってしまう。苦肉の策としてもっとも露出が多い箇所に人工芝のマットを載せて固定し、安全性を確保していた。
この山を一度大きく削り、「ハエルタイ」という商品名の土のう袋に黒土を詰めて積んで嵩上げをしていった。この土のう袋には草の種子が仕込まれており、水やりをしていくと草が生えてくるのである。

保護者と職員一体で行った築山づくり。

現在は上のように草が生い茂っている。

さらに途中に段差を設けて二段構造としたことで、乳児でも登ることができるようになり、縦だけでなく横への動線も生まれたことで空間自体の広がりが生まれた。段違いのところを子どもたちは歩いたり、走ったり、スクーターで登ってみたりしている。

この山ができたことにより、去年雑草の移植に取り組んだこの山裏のエリアと一体感が生まれ、より子どもたちにとって緑の存在がより身近なものとなった。もともとフェンスの外側には野草や花が豊富だったもののフェンス内側にはそうした要素が薄く、子どもたちにより草花に接してもらいたいという狙いがあったので、それについてはある程度達成されたといえる。

ただ同時に新たな課題として、このハエルタイから伸びる草や、山裏のエリアにある雑草たち（特にムラサキツメクサが多い。繁殖力が強いので少し移植したものがどんどん範囲を拡大している）にはあまり虫が寄り付かず、虫捕り的にはあまり盛り上がらないということもわかってきた。現在はシロツメクサなど、畑に生えているような雑草への置き換えを計画している。ただ、虫を呼ぼうとするとありがたくない虫や生き物も呼び寄せるおそれはあるものの、それが自然というものであろう。現在でも毎朝の園庭チェック時に草むらを棒でつついてヘビなどの有無を確認しているが、自然環境を乳幼児の遊び環境として考える上ではそうした細かい気の遣い方も重要になってくる。

（２）特に印象的だった遊びの事例に関すること

上記の築山の周囲の草むらによくカナヘビがいるのだが、それを年長児が二匹つかまえ、部屋で飼育するということがあった。あのすばやいカナヘビをつかまえるのもなかなか難儀だとは思うが、まさかそれを飼育できるとは思っていなかったのでとても驚いた。さらに驚くことに、その二匹の間に卵が産まれたのである。まさか人工の環境下でカナヘビの卵まで見られるとは！残念ながら孵るまではいかなかったが、子どもたちにとって興味関心が向けば、大人の想定する「自然との関わり」のラインなど超えてしまえるのだなと思わされた一件だった。

カナヘビを探す園児たち。